

組織目標評価報告書（令和2年度）

部局名:

環境理工学部

部局長名:

難波徳郎

目標・取組	目標・取組の実施状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	教育領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<p>1. 入試の実施状況</p> <p>①入試における志願者倍率の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 改組後の志願者確保に向けて、工学部と調整しながら以下の事業を実施する。高校への出前講義、大学訪問での学部紹介、学生募集支援企画(夢ナビ)でのミニ講義 <p>2. 教育の実施体制</p> <p>①教育の実施体制(組織的なFD、教員のインセンティブ向上)について</p> <ul style="list-style-type: none"> 1996年から継続実施している教員対象の研修会を実施する。 グローバル・ティスカハリー・プログラム(GDP)について、卒業研究指導の協力体制を整備する。 改組後の教育実施体制について、工学部と調整する。 コロナウイルスの影響で、オンライン授業が継続された場合に備えた教育実施体制を検討する。 <p>②「教育の質保証」に関する体制整備について</p> <ul style="list-style-type: none"> 学部の教育プログラムを評価するための体制を整備する。 <p>3. 教育方法・内容</p> <p>①教育方法・内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> 本学部が推進してきた実践型環境教育、キャリア教育の更なる充実を図る。 GTEC、TOEICスコアを卒業論文履修要件に課した効果を継続検証する。 技術者倫理、環境倫理教育を継続し、学生の倫理観の向上を図る。 コロナウイルスの影響で、オンライン授業が継続された場合に備えて、教育方法・内容を検討する。 <p>②国際共同による教育の状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナウイルスにより今年度予定されていた以下のプログラムはすべて中止となった。タイ国カセート大学、国立台湾大学との国際交流プログラム「GP特別コース」、ヘネッセ(株)との「英語で学ぶニュージージーランド環境研修プログラム」、地域企業との「環境ものづくり国際インターンシップ」 <p>4. 教育の成果</p> <p>①教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)について</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生の学習到達度の定量的な評価方法について検討する。 卒業生や就職先などに意見聴取を行い、教育方法の改善等につなげる。 オンライン授業が学習成果に与えた影響について評価する。 <p>②学生支援について</p> <ul style="list-style-type: none"> CAやTA・SAによる学習支援の他、本学部独自のキャリア支援を継続して行う。 コロナウイルスが学習や生活面に与えた影響を調査し、必要な学生には適切な支援を行う。 <p>③外国人留学生の受入状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> 留学生の教育支援の充実を図り、改組後の留学生の志願者数増加を目指す。 	<p>1. 入試の実施状況</p> <p>①入試における志願者倍率の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般選抜の志願者倍率は2.5倍(前期2.0倍、後期8.3倍)であった。新たに建築系教育プログラムを立ち上げる環境・社会基盤系については前期日程で2.0倍に留まった。ただし、推薦入試では新生「工学部」では最も高い7.4倍であり、次年度の倍率向上が期待される。 <p>2. 教育の実施体制</p> <p>①教育の実施体制(組織的なFD、教員のインセンティブ向上)について</p> <ul style="list-style-type: none"> 教務FD委員会を中心にコロナ禍での授業の実施体制について検討した。なかでも、木村幸敬教授と辻本久美子助教の担当した専門基礎科目「エネルギーとエントロピー」は学生から高い評価を受け、3/18に開催される第2回『Good Practiceから学ぶオンライン授業』で紹介された。 3.4学期から、特に1年生について対面による授業を増やすよう検討したが、大人数が受講する専門基礎科目と学科ごとに開講される中・少人数の専門科目間の調整が難しく、専門基礎科目のほとんどは対面での実施を見送らざるを得なかった。 <p>②「教育の質保証」に関する体制整備について</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で、特に1、2学期ではオンラインにより試験を実施したが、各教員は不正防止対策に苦勞したようである。オンラインによる試験実施はしばらく継続すると思われるので、不正防止対策に関する知見の共有が必要と考える。
②研究領域	研究領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<p>1. 環境生命科学研究所との連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> 質の高い課題研究を指導し、研究水準の更なる向上に努める。 学部研究報告、HP等を通じた積極的な情報発信により研究成果の社会還元を図るとともに、成果の質の確保・向上に繋げる。 外部競争的資金(特に科研費)の積極的な申請を支援する。 積極的な異分野融合研究を提案する。 共同研究を推進する。 SDGsを意識した研究を展開する。 コロナウイルスの影響により生じた研究の遅延に対して、影響が最小限に留まるよう、対応策を検討する。 <p>2. 研究倫理教育について、教職員と学生を対象に更なる充実を図る。</p>	<p>1. 環境生命科学研究所との連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> 特に研究科の定員充足に向けて、学部1、2年生の授業の中に研究成果を紹介する機会を設けた。 研究科のパンフレットや研究紹介の動画作成に協力した。 様々な取り組みの結果、昨年度の博士前期課程の受験者が153名だったところ、今年度は185名と30人以上増加した。 <p>2. 研究倫理教育について、教職員と学生を対象に更なる充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学部4年生を対象に、学部独自の研究倫理に関する講習会を開催した。対象者159名のうち、156名が受講した。 教員のうち前回受講から5年経過する者、受講の確認ができていない者など対象者40名についてJSPSのeラーニング受講を依頼中。(3/15現在27名受講済み)
③社会貢献(診療を含む)領域	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<p>1. 地域社会との連携、社会貢献について</p> <ul style="list-style-type: none"> オープンキャンパス、高大連携による大学訪問と高校への出張講義、スーパーグローバルサイエンス校への支援協力を通じて、地域の高等学校との連携を図る。コロナウイルス対策として、オンラインによる実施を検討する。 公開講座等を通じて、地域住民の環境意識啓発に貢献する。 教員免許更新講習等を通じて岡山地域を中心とした教員への貢献を行う。 実践型環境教育「実践型水辺環境学及び演習」「学内水循環施設を活用した蜚の生育地創成プロジェクト(蜚プロジェクト)」などの成果を近隣住民に発表し、環境理工学部の教育・研究活動について周知する。 「SDGs・ESD実践基礎」「SDGs・ESD実践演習」などの実践科目の拡充を通じて地方行政、NPO法人、地域社会との連携を図る。 岡山と海外に生産拠点を持つ地元企業との協働プログラム「環境ものづくり国際インターンシップ」を通じ、地場産業の活性化を図る。 <p>2. 国際交流・協力について</p> <p>※コロナウイルスの影響により、今年度予定していた以下の事業はすべて中止とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> タイ国カセート大学、国立台湾大学との協働実施国際交流プログラム「GP特別コース」を実施し、地方行政機関やNPO等との連携により地域社会との交流を図るとともに、海外大学との交換留学により国際交流を図る。 Co-opプログラムに参加するカナダブリティッシュコロンビア大学の留学生を受け入れ、本学学生との国際交流を図るとともに、Co-opプログラムに参加した10社程度の地域企業との交流も図る。 国際的な感覚と地球規模の環境問題について若い学部学生への意識付けを目的として「英語で学ぶニュージージーランド環境研修プログラム」を地元企業との協働で実施する。 	<p>1. 地域社会との連携、社会貢献について</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナのため、公開講座などの地域住民が参加する行事はすべて中止した。オープンキャンパス、大学訪問、出張講義は基本的にオンラインにより実施し、高校生や高校との連携が途切れることのないよう配慮した。 <p>2. 国際交流・協力について</p> <ul style="list-style-type: none"> 国際交流事業についても基本的にすべて実施を見送った。 CLSプログラムについては、3プログラムに絞ってオンラインにより実施されたが、環境理工学部はビデオ会議を活用した交流プログラムを提供した。
④管理運営領域	管理運営領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等
<p>1. 部局運営体制の改善強化と組織の活性化について</p> <ul style="list-style-type: none"> 効率的な組織運営により、教員の研究時間を確保する。 2021年度予定の本学部と工学部の融合改組による新学部の管理運営体制を検討する。 コロナウイルスの影響を最小限にとどめるよう、効率的な部局運営に努める。 <p>2. ダイバーシティの推進(女性教員・外国人教員比率・次世代育成支援等)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ダイバーシティ推進室と連携し、男女共同参画を支援する。 <p>3. 効率的・戦略的な予算配分・執行について</p> <ul style="list-style-type: none"> グローバル化・実践知・異分野融合に加えて、SDGsの推進を促す予算配分と執行を行う。 <p>4. 安全衛生に対する配慮について</p> <ul style="list-style-type: none"> 学部安全衛生委員会の定例開催による情報の提供、安全衛生に関する問題点の吸い上げと迅速な対応に努める。 <p>5. 施設整備の推進について</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設パトロールや部局ヒアリングなどの機会をとらえて、教育研究環境の向上を目指す。 <p>6. 法令遵守の徹底について</p> <ul style="list-style-type: none"> 技術者倫理、環境倫理、ならびに研究倫理教育の充実を図る。 コンプライアンス研修会を実施する。ハラスメント研修会を実施する。 情報セキュリティセミナーを開催する。法令遵守体制の整備に努める。 	<p>1. 部局運営体制の改善強化と組織の活性化について</p> <ul style="list-style-type: none"> 工学部と協力して新生「工学部」の設置計画書を作成し、8月には設置認可を得た。これを受けて、都市環境創成コースに設ける建築系教育プログラムでは、一級建築士の受験資格を認定された。この他にも、管理運営体制などについて、多大な時間を費やして取りまとめた。 コロナ禍にあって、理工系8部局長と連携し、教育・研究活動の早期再開に向けた様々な取り組みを行った。研究面では、リスクマネジメントを行いながら、段階的に研究室での活動を認めた。また、環境生命科学研究所、農学部の執行部で毎週30分程度のミーティングを開催し、情報を共有した。 教育面のコロナ対応については、教務FD委員会を中心に、年度当初はオンライン授業への支援を行い、対面授業が認められて以降は、感染防止策を徹底し、対面授業を増やした。3学期以降は、特に1年生の対面授業を増やすことに努めた。 <p>5. 施設整備の推進について</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設パトロールや部局ヒアリングの際、来年度の新入生がパソコン必携になるため、講義室のWi-Fi整備および電源コンセント増設について要求を行った。 <p>6. 法令遵守の徹底について</p> <ul style="list-style-type: none"> 学部情報処理委員会主催でオンライン(Moodle)にて全教職員に対して情報セキュリティに関する講習会を実施した。